



神祕を語る古代文字と

謎をきざむマスタ

東洋のスフィンクスと喜ぶ西田さん

考古學上の好資料

神祕と輝いて居る文明の今日に於て幾多のなぞが取り残されて居る。人類が創造されてから幾千年なほその横の経緯を審みし得ない。故自らを知られしつた言葉も意味して見ると自己の發生を知らず得ない。試練の答をうけるのである。神祕と輝いて居る文明の今日その表面の華麗に相應はしくない幾多の考古學者や人類學者が離散として微に入り細に臨み奮々とするもこの大なるなぞを解んがためである。刻那の快に走る人々もその奥底には依然その解決を欲して居るのである。茲に於て遺跡古物の天然記念物保存となつて居る小樽手宮古代文字に於て異説がある。然るにこれが市證となるべき古文書が關島春部村に於いて発見された事は人文史上有力な資料と言はなくてはならぬ。人類共通の「見宛めるといふ強い意識がより強烈となるのである。

一方南下

したツツング一ス族がをつた事は事實であるから常に闘争は絶へなかつたものと想像される。それで日本でもさうだが酋長とか名將の戦死した場合はその首を敵に渡さない習慣があつたのでこの現場も、隨に首をその土器に入れ埋没せしめその記念にその岩石に彫刻し、同所の岩壁に記號を印したものと思はれる。更に角鹿島から

忍路寄り

の房産に關島小塚から春部寄りの箇所にはストーンサークルがあり且春部には處々にアイヌの足跡がある處より更に現在まで十五尺以上も土で埋はれた地中に斯くの如き古蹟が存してゐるといふ處よりして手宮の古代文字が後人の操作であると、いふ説に對する一有力な反證で、且それ以上に何等かの連絡がありはしないかとも思はれるのである。が兎も角かゝる珍品が

発見され

たことは考古學にとつて大なる真蹟で、エジプトのスフィンクスがカイロ河畔で千古の謎として舞えてゐる時、東洋のそれに等しきマスタが春部海岸に無敵の神祕を蔵してゐる事は、境界の寶としてこれを保存しなればならぬ。発見者である宮本氏はこの文字の箇所を掘り初めたのは十月五日でその三日目にこゝに到達したのであるが文字が眼についたので不思議と思つて丁寧にみると手宮の古代文字に似て居るので大切にしたい、そのうちにこの首が出て來て始めは知らぬので鶴はしして頭部の邊を少し欠いたが遠くで見ると程人の顔に似て來たので保存する事に決した。同所に土器と石斧と人骨を發見したので、只事はなと思つて居ました。(寫真上段發表された文字、下段右発見者宮本義明君と右手の石斧左手の土器の破片、同左マスタ)

御同伴の

既田教授の語である、なほこれ以上にセンセーションを起すべき一大資料と見るべきものはその岩の尖端に彫つたマスタ(人の顔)で、約二尺一尺、四角ばつた扁平的の怪異の相續をしてゐる、眉太く口大きい處からアイヌ種族の顔がちであるかゝる珍品が

發掘され

たのはこれが嚙矢で、既田教授が「東洋のスフィンクス」と叫んで喜んだのも無理はない、その他石斧一箇と土器(腰れたので判然しないが、一箇らしい)人骨、下脛で、四枚ありと余市の人骨もゆけり)が出たのである、石斧は約五寸位であるが石のかたさから推して、その處の岩々には全然相違してゐるので他所から持つて來たものと思はれる。住昔その

近傍が海

であつた事はその岩の形状から見ても、無疑なるがその岩の下四五尺掘ると一箇に砂があるのとその附近が一帶に砂地であるのと、分際である、從つて先住人が既に變化した時海岸に近い、南東面に彫した(一體に暖かい方面に住する習性を持つてをつた)その洞窟に宿つたものと思はれる。而して、(詳細は既田教授の既田教授が述べるが)アイヌ種族に對し

解決する

といふ潜在意識のしゆん動と千古の未知の扉を打開しといふ驚喜の心の躍動である、それがつひ目と鼻の間にある。關島は春部村に發見されたといふ事は何といふ大きな收獲であらう、この有力な資料の發見者である關島義明君に敬慕する宮本義明君の亦、是れは偉大であるといはなくてはならぬ、この綴を得た記者は、關島西田教授並に眞直と共に現場に赴いたのである、場所は關島西田村

トンネル

を穿り抜ける春部村に入る鐵路に沿ふて約六七丁山と山の切通しの箇所こそこの神祕を包む現場なのである、切り開かれたために孤山となつたこの山は約百尺の高さで、巖灰岩から成つた岩塊と層をなし土をもつて堆はれてゐる、そしてこの古跡の箇所は十五尺程掘り下げて始めて現れて來たのである、この奇蹟の文字を彫り刻めた岩石は、往昔海中であつた所と見え、波力に削られた痕跡が、幾少であるが彎曲してゐる文字は十字であつたのであるが子供が一字つづしたので九字より存してをらない、しかも一兩字を除く外刻みが深くこのまゝ保存する時は幾何もなく消滅する虞がある。文

若小牧町二條通り長谷川御夢苑

何もなく消滅する虞がある。文